

コロナ対策徹底し朝市開催。農作物収穫やSUP体験も

太平洋に面した千葉県いすみ市で人気のイベントといえば大原漁港が会場の「港の朝市」。医師のアドバイスの下、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、開催日は多くの来場者でにぎわっている。

港の朝市は市と民間による運営委員会が毎週日曜日に開催していたが、新型コロナ拡大で3月から休止した。同市は都心から車や電車で約90分の里山が広がる地域で感染者はわずか。一方で高齢化率が高く医療体制が十分でないため、感染拡大に強い危機感を持っていた。緊急事態宣言が解除されても朝市は再開せず、市内の中核病院の感染制御アドバイザが陣頭指揮を執って出店者を対象にした講習会を開き、現場で感染予防を指導。中核病院へのPCR検査室設置や療養病床の確保など万全のバックアップ体制もあり10月に再開した。

休止前まで会場への出入りは自由だったが、再開後は出退場口を設けて検温と手指消毒、入場タグを渡して滞在時間を制限。さらに人気だったバーベキューコーナーは飛まつを避けるために再開当初は未設置だったが、状況を見て復活させる方針とした。

現在は隔週日曜日開催。店先にはイセエビやマダコ、魚の干物など新鮮な海産物や名物料理が並び、オープン直後から多くの来場者でにぎわっている。

都心からほどよい距離の田舎で移住地として近年人気の同市。同市の魅力を発信するNPO法人いすみライフスタイル研究所では、緊急事態宣言が解除されてから人気の有機野菜の収穫体験とスタンドアップパドルボード(SUP)で川掃除するイベントを再開した。

農業が盛んな同市では市と民間が協力して環境に優しい無農薬無化学肥料の有機農業を推進。収穫体験もSUPの川清掃も豊かな自然を守る取り組みを全面に出したイベントで、首都圏で体験できるのは同市ならではの。コロナ禍の現在、ホームページの募集のみで「熱心に見つけてくれた方、身近な方で楽しみながら取り組んでいます」とNPOの高原和江理事長(49)は話している。

千葉日報社 勝浦支局長 廣田和広



イセエビなど新鮮な海産物が並ぶ港の朝市



SUPに乗り、川のごみを拾うイベント参加者